

好奇心を抱き探究する園児をめざして ～園児の興味や関心を生かした表現活動を通して～

那覇市立大道みらいこども園保育教諭 永村 裕子

〈研究の概要〉

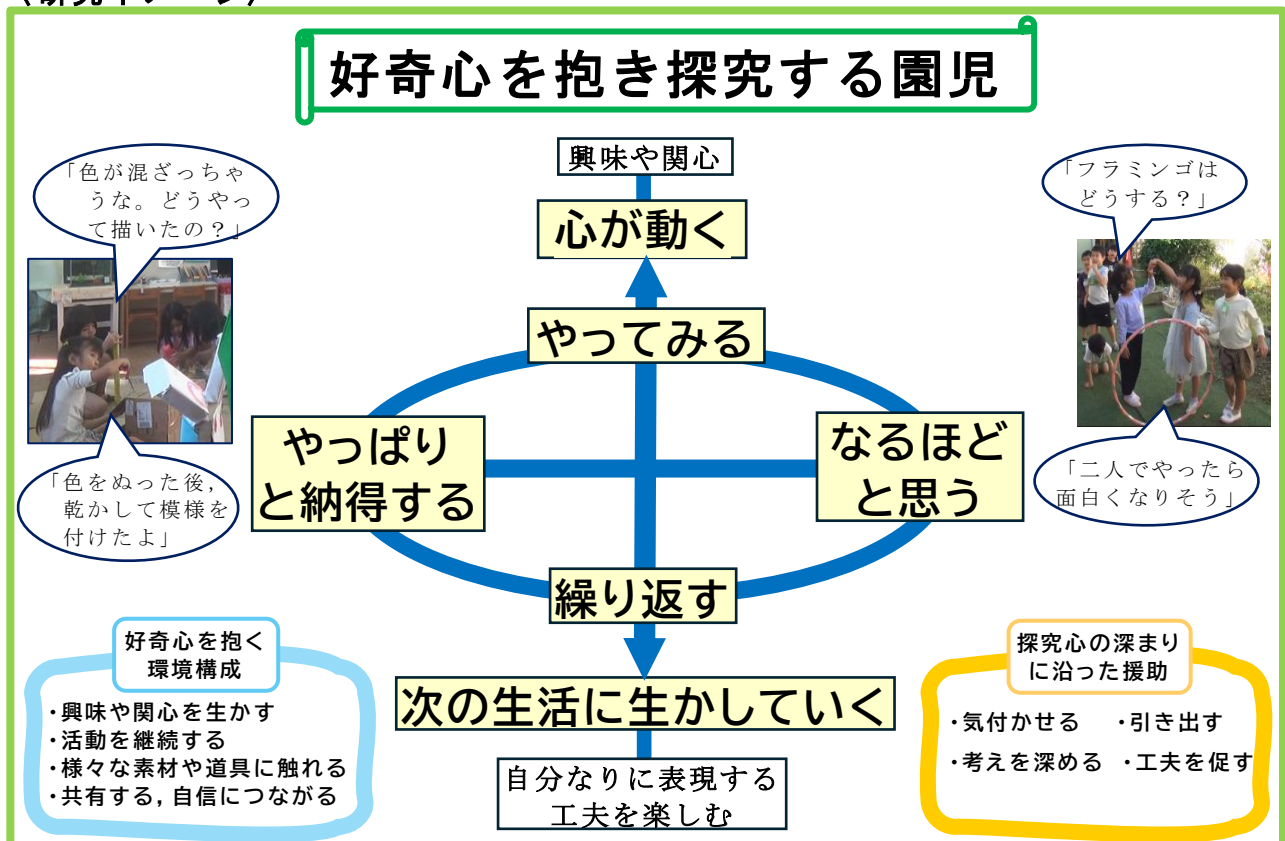
園児の実態として、身近な環境に親しみながら主体的に遊んでいる子が多い。しかし、気付いたことを「どうしてだろう？」と、さらに疑問をもって調べたり、思いを表現しながら考えを深めたりする園児の姿はあまり見られなかった。

そこで、園児の興味や関心を生かし、「わくわく！どうぶつもののしりはかせになりたい」の活動を通して、好奇心を抱き自分なりの考えを自信をもって表現する環境構成や援助の工夫について研究した。

実践を通して、園児が「面白そう」と関心をもち、物事をじっと見つめ好奇心を抱く姿を捉え、園児の興味や関心を生かした表現活動を行った。その際、園児が活動の面白さに気付き活動に取り組めるよう、探究心の深まりに沿って、「面白さに気付かせる、園児の気付きや考えを引き出す、自分で予想し考えを深める、自分なりの工夫を促す」の4つの視点を持ち援助の工夫を行った。また、身近な環境に好奇心を抱き友達と考えを合わせながら夢中になって取り組めるよう環境構成を工夫した。

その結果、園児は、自分が興味のある表現方法を選択し、じっくり取り組み、試行錯誤しながら自分なりの気付きや考えを表現していた。また、友達との関わりを通して、探究心が深まり夢中になって活動に取り組む気持ちの高まりをみることができた。

〈研究イメージ〉



目 次

I	テーマ設定の理由	31
II	研究目標	31
III	研究構想図	32
IV	研究内容	32
1	好奇心を抱き探究する園児をめざして	
(1)	発達の段階と探究過程について	
(2)	好奇心について	
(3)	探究心の深まりについて	
2	園児の興味や関心を生かした表現活動とは	
(1)	表現活動と探究のつながり	
(2)	園児の好奇心や探究心を深めるための環境構成の工夫	
(3)	園児の好奇心や探究心を深める援助の工夫	
V	保育実践	35
1	保育計画	
(1)	実態把握	
(2)	保育計画	
2	実践事例	
(1)	好奇心や探究心を満たし、表現を楽しむ環境構成の工夫	
(2)	事例1 自信をもって表現することを楽しむ手立ての工夫 ～クイズ作りに夢中になる A 児の変容を通して～ 【考察】	
(3)	事例2 友達と考えを合わせながら、繰り返し遊びを楽しむ手立ての工夫 ～新しい考えを生み出し遊びを工夫する B 児の変容を通して～ 【考察】	
3	園児の変容	
VI	成果と課題	40
1	成果	
2	課題	

《主な参考文献》

好奇心を抱き探究する園児をめざして ～園児の興味や関心を生かした表現活動を通して～

那覇市立大道みらいこども園保育教諭 永村 裕子

I テーマ設定の理由

文部科学省、中央教育審議会答申『子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方』では、「遊びの中での興味や関心に沿った活動から、興味や関心を生かした学びへ、さらに教科等を中心とした学習へのつながりを踏まえて、幼児教育における教育内容や方法を充実する必要がある」と示されている。また、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（以下教育・保育要領解説）「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」では、「自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じとり、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現する」と示されている。これらは、園児が身近な環境に主体的に関わり、自然の不思議さや面白さに気付き、好奇心や探究心をもって試行錯誤したことを、自分なりの言葉などで表現する姿と捉えられる。このような充実した幼児期の体験や経験を通して、小学校以降の生活や学習の基盤を育成する必要がある。

本学級の実態として、身近な環境に親しみながら主体的に遊びや活動に取り組む子が多い。特に自然物に興味がある子が多く、学級で飼育しているザリガニの赤ちゃんが誕生したことを喜び、身近な動植物に愛情を持って関わる姿が見られる。しかし、「赤ちゃんは透明な色だ!」と気づいたことを「どうして、赤ちゃんは体の色が違うんだろう?」と、さらに疑問をもったり、好奇心を抱き調べたりしながら、考えを深める園児の姿はあまり見られなかった。このような姿を捉え、私自身の保育を振り返ってみると、園児が興味や関心をもったことを、自発的に調べたり、友達と相談しながら解決したりする力を育む環境構成や援助の工夫が不十分だったと考える。

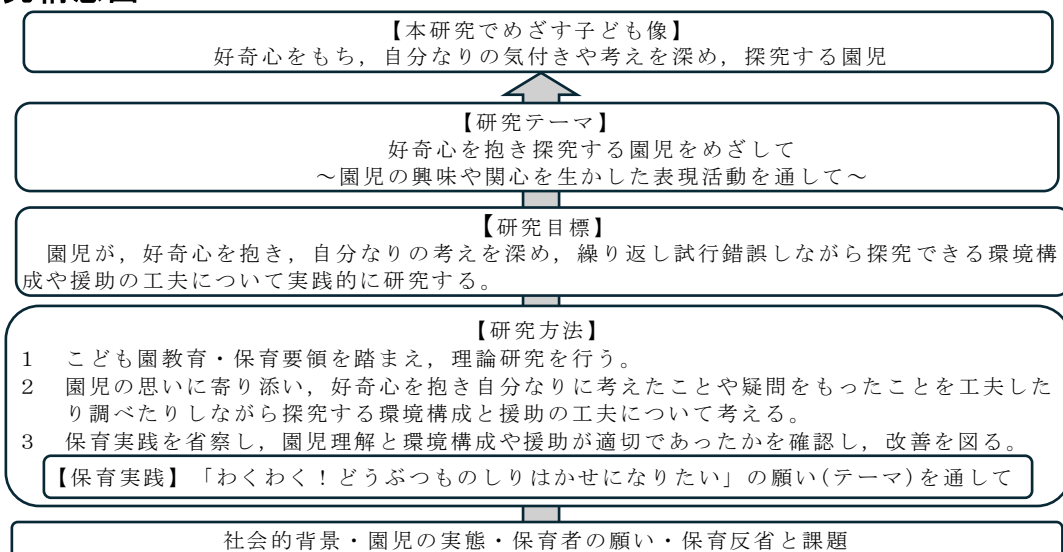
そこで、動物園に行くことを楽しみにしている園児の思いに寄り添い、クラスで相談した「わくわく! どうぶつものしりはかせになりたい」の願い(テーマ)のもと実践する。感動する体験を通して、一人でじっくり取り組み、考えを深め、試行錯誤する楽しさを感じられるよう環境構成を工夫する。表現活動では園児の興味や関心を生かし、運動遊びやクイズ、製作活動等、表現方法を広げることで、自ら考え、発見を楽しみ、自信をもって活動に取り組めるようにする。また、保育教諭や友達と思いを伝え合う経験を重ね、考えたことを自分なりに表現したい思いが高まるよう言葉かけを行う。友達と関わることで、活動の面白さに気付き、自分なりに疑問に思ったことを試行錯誤しながら、新たな考えを生み出し、遊びに夢中になって取り組めるよう工夫を図る。

本研究では、園児の興味や関心を生かした表現活動を工夫することで園児なりに疑問を解決する力や自分の考えを自信をもって表現する姿を育めると考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

園児が、好奇心を抱き、自分なりの考えを深め、繰り返し試行錯誤しながら探究できる環境構成や保育教諭の援助の工夫について実践的に研究する。

Ⅲ 研究構想図



Ⅳ 研究内容

1 好奇心を抱き探究する園児をめざして

(1) 発達の段階と探究過程について

教育・保育要領解説では、「幼保連携型認定こども園は、0歳から小学校就学前までの一貫した教育保育を行うことから、そのための環境は、園児の発達の特性を踏まえた工夫が必要である」と示されている。また、秋田(2020)は探究過程の分析について、「0歳から1歳は探求の芽生え～探索～、2歳は探求過程の深まり、3歳は主体的な遊びの中での探究、4歳から5歳は他者との関わりの中から探究活動が深まる、6歳以降(就学後)は自己の気付きからの深い学びの探究」と述べている。

これらのことを踏まえて、0歳～6歳以降の発達の段階ごとに「探究する主な姿」についてまとめた(表1)。実践では、4～5歳児の探究が「他者との関わりの中から深まる」ことを踏まえ、友達と一緒に活動を楽しみながら、思いを共感し、遊びを広げられるよう環境を構成していく。

表1 秋田喜代美「探究過程の分析」および『小学校学習指導要領解説』をもとに作成

発達の段階	探究過程	探究する主な姿
0歳～1歳	探求の芽生え 探索	・見えた物に手を伸ばす、手を出して触れようとする、何度も繰り返す。 ・光や音等を感じた所に顔を向け、表情以外でも身振り手振りで表現。
2歳	探求の高まり	・身近な物に好奇心を抱き、触ったりして試す等、実体験を通して気付く。 ・試したことを通しての発見。発見したことを納得いくまで繰り返し行う。
3歳	主体的な遊び の中で探究	・主体的な遊びの中で、自分で選択し繰り返し興味があることを楽しむ。 ・友達の様子を見る。自分なりのやり方でやってみる。
4歳～5歳	他者との関わり の中から 探究が深まる	・言葉や身振りなど様々な表現方法で、友達と共感し合い、遊びの楽しさを広げる。 ・様々な考えに刺激を受け、自分なりに考え、工夫しながら、粘り強く取り組む。 ・友達のを模倣しそこに自分のアイディアを入れオリジナルのものへ変化させていく。 ・「もっと〇〇したい」と考え、繰り返し試す。新たな興味関心が生まれ探究を繰り返す。
6歳以降 (就学後)	自己の 気付きから 深い学びの 探究活動	・自ら強い興味や関心をもつ。実際に体験したり調査したりして、繰り返し対象に働きかけることで、対象への思いを膨らませていく。 ・興味ある事象について、納得するまで課題を追究し、本気になって考え続ける。 ・多様な考え方に触れ、自分の考えを深め書いたり話したりしながら言語活動が充実する。

(2) 好奇心について

教育・保育要領解説「環境」では、「園児は好奇心を抱いたものに対して、より深い興味を抱き、探究していく」と示されている。また、六車(2023)は、好奇心を見取る3

つの具体的な姿として、「身近な事象に関心をもちじっと見つめる姿、やってみたい！と思いをもち身を乗り出したり表情が変わったりする姿、なぜ？と疑問をもち周囲の人に尋ねたり調べようとする姿」と述べている。これらは、園児が身近な環境から気になるものを見つけ、「なにかな？」「面白そう」等と感じ、心動かすことで好奇心をもち探究するようになると考える。

そこで、本研究では園児が好奇心を高め夢中になって活動できる環境構成や、保育教諭も一緒に取り組んだりして友達と関わりながら新たな考えを生み出せるよう援助をする。また、園児の好奇心が継続して育まれるよう言葉かけを行い家庭との連携も図る。

(3) 探究心の深まりについて

教育・保育要領解説「環境」では、「園児は、周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって主体的に関わり、自分の生活や遊びに取り入れていくことを通して発達していく」と示されている。園児が、身近な環境に興味や関心をもち関わり、じっくり取り組んだり遊びが十分に繰り返されたりできるように援助することで、さらに関心をもち自分なりに予想しながら遊ぶようになると考える。

年岡(2000)は、学びの過程を「心が動く→やってみる→なるほどと思う→繰り返す→やっぱりと納得する→次の生活に生かしていく」と述べている。以上の過程を参考にし、本研究では園児が「好奇心を抱き『何だろう？』と疑問をもったことに対し、自分なりに考えたり調べたりしながら試行錯誤し、夢中になって取り組む気持ちの高まり」を探究心が深まると捉えまとめた(図1)。

本研究では、身近な環境に関わりながら「面白そう」と心を動かし活動を楽しめるように、「どうぶつものしりはかせになりたい」の願い(テーマ)のもと、園児の興味や関心を生かし、クイズやダンス、言葉遊びなどを楽しみ、動物に興味や関心があまり見られない園児も好奇心を抱けるように工夫する。さらに、「ライオンのたてがみはどうしてあるの？」等と園児が不思議に思ったことを動物園見学の際に飼育員に直接質問する時間を設け、疑問に思ったことを解決する楽しさを味わえるようにする。自分達で調べたこと、活動を通して発見したこと等をオリジナル図鑑にまとめることで、園児が気付いたことに「面白そう」と心を動かし自分なりに試行錯誤し、考えが深まっていくと考える。

2 園児の興味や関心を生かした表現活動とは

(1) 表現活動と探究のつながり

教育・保育要領解説では「主体的に自然の色々な面に触れることで好奇心が生まれ、探究心が湧き出てくる。さらに、その考えや思いを言葉や動きに表し、音楽や造形的な表現にも表して、確認しようとする」と示されている。園児の表現したい意欲を十分に発揮させるために、表現を豊かにする環境として、通常の用具に加え、様々な素材や大きさの違う道具や材料も用意する。園児が興味や関心のある遊びを室内でも行えるよう運動用具を用意し、どれを使ったらより本物の動物みたいに表現できるか自分なりに

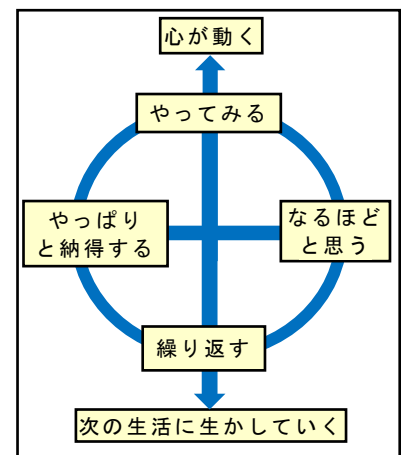


図1 探究心の深まり

考え、選択し、繰り返し工夫することで、自信をもち、夢中になって取り組む気持ちの高まりが育まれるよう工夫する。

また、宮里(2018)は、「発見を驚き、ともに楽しむ仲間がいて探究が始まる」と述べている。園児が興味や関心を抱き「もっとやってみたい」と心を動かし積極的に活動を展開することで、友達と体験を楽しみ、自分なりの思いや考えを様々な方法で表現し、好奇心や探究心が育まれていくと考える。

実践では、園児の興味や関心を生かし「～でやってみたい」という思いを受け止め、一人でじっくり取り組める活動も大切にし、自分なりに予想し試行錯誤する面白さを感じられるようにする。そこに、友達の考えも加わることで、さらに面白く楽しく活動が展開され、夢中になって取り組む気持ちが高まり、自信をもって表現活動が行えるようになると思う。

(2) 園児の好奇心や探究心を深めるための環境構成の工夫

教育・保育要領解説では、「園児の興味や関心は、対象と十分にに関わり合い、好奇心や探究心を満足させながら、自分でよく見たり、取り扱ったりすることにより、さらに高まり、思考力の基礎を培っていく」と示されている。保育教諭が園児の発達過程を十分に理解しながら様々な対象とに関わり合えるように、園児がどのようなことに興味や関心を抱いているのかを捉え、意図的、計画的に環境構成をすることが大切である。

そこで、5歳児後半における主体的な遊びの中で、園児が身近な環境に「おもしろそう」と、好奇心を抱き夢中になって関わられるよう「興味や関心を生かせる」「活動を継続したくなる」「様々な素材や道具に触れられる」「共有する・自信につながる」の視点を持ち、環境構成の工夫を行う(表2)。それらの環境のもと、保育教諭や友達が活動や集まりの場において、園児らしい表現を受け止めながら共感することで、どうすればもっと面白くなるか繰り返し考えたり友達と思いや考えを出し合ったりして、自らの遊びを振り返り次につなげる等、好奇心や探究心をもって粘り強く取り組むようになると考える。

表2 環境構成の工夫

視点	【環1】興味や関心を生かした場	【環2】活動を継続したくなる場	【環3】様々な素材や道具に触れられる場	【環4】共有する場 自信につながる場
環境構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な遊びの中で、自分でやってみたいことを選択できる環境 自分なりに疑問に思ったことを図鑑などで調べられる環境 	<ul style="list-style-type: none"> 作品を掲示し、今までの活動を可視化するなど、友達と考えを合わせ、遊びに夢中になる環境 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な素材や道具、用具等を準備し、新たな意欲や考えにつなげ、わくわくしながら粘り強く取り組む環境 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と思いを共有し、新たな気付きや発見につながる環境 思いや考えを表現し、満足感や達成感を抱き、自信につながる環境
具体的な姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎「面白そう」と好奇心をもち、友達と遊びや活動をつくりだす。 ◎疑問に思ったことを、図鑑で調べたり、友達に聞いたりしてさらに好奇心を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎友達のを模倣しやってみる。 ◎友達の姿を見て、楽しさや面白さを感じ、やりたいことを試す。 ◎友達のアイディアと自分の考えも合わせ、繰り返し挑戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分なりのやり方でやってみる。 ◎「～みたいになりそう」と自分で予測や比較をしながら繰り返したり、友達と考えを合わせたりして、粘り強く取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎遊びや活動を振り返り、友達と思いや考えを伝え合い、次の活動の意欲を示している。 ◎できたことを表現し、自信をもっている。

(3) 園児の好奇心や探究心を深める援助の工夫

教育・保育要領解説では、「園児は、興味や関心を抱き、好奇心や探究心を呼び起こされるような様々な事物や現象に出会う。そのようなものに対する興味関心は、他の園児と接することによって、あるいは保育教諭等の援助などによって、自分もそれに興味

や関心をもつようになり、共にその対象に関わって活動を展開したりて、広げられ高められていく」と示されている。保育教諭が、園児なりに考えている姿を見守りながら、一緒になって考え、心が動く瞬間を共有し、寄り添っていくことで、園児は好奇心を抱き、自信をもって表現するようになる。さらに、友達と関わり、思いを伝え合うことで、考えを深め探究する姿につながると考える。

本研究では、園児の興味や関心を生かし、喜んで表現する活動を通して、園児の心が動き探究心が深まっていく気持ちの高まりを見取り、言葉かけを行う。「①面白さや楽しさに気付かせる」「②園児の気付きや考えを引き出す」「③自分で予想し行動する力を引き出す」「④自分なりの工夫を促す」の4つの視点をもった援助の工夫についてまとめた(表3)。

表3 探究心の深まりと援助の工夫

探究心の深まり「園児のつぶやき」	保育教諭の援助
<p>心が動く</p> <p>「見せて」「面白そう」「すごい」「何これ」</p>	<p>援助①(気付かせる)面白さに気付かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭が活動の面白さを伝え、好奇心をもち、「やってみたい」と思えるようにする。 ・園児が何に心を動かしているのか等の興味や関心を探る。 ・思いを共感したり、一緒に取り組んだりする。
<p>やってみる</p> <p>「～かもしれない」「～してみたい」</p> <p>やっぱりと納得する</p> <p>「やっぱり～なんだ」「～だから～なんだ」</p> <p>なるほどと思う</p> <p>「～みたいに工夫してみる」「これでいいかな」</p> <p>繰り返す</p> <p>「もう1回やってみる」「今度は～してみよう」</p>	<p>援助②(引き出す)園児の気付きや考えを引き出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児の思いを言葉にして伝え、さらなる考えを引き出す。 ・一緒に考えたり友達の様子を知らせたりして、新しいアイデアを生み出し、繰り返し挑戦できるようにする。 ・「どうしてそう思ったの?」と質問し気付きを表現できるようにする。 <p>援助③(考えを深める)自分で予想し行動する力を引き出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児の挑戦を促したり、予想したりして、考えを引き出せるように問いかけ、自分なりに納得し、繰り返し挑戦できるようにする。 ・困っている時は、共に考え、新たな気付きにつながるような言葉かけをする。 ・達成感や満足感につながり、さらに自信を高められるように、思いに共感する。 ・じっくり取り組み、イメージにあったものを選択したり、繰り返し試行錯誤したりできるようにする。
<p>次の生活に生かしていく</p> <p>「今度は～をやってみよう」「明日もやってみたい」</p>	<p>援助④(工夫を促す)自分なりの工夫を促す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに考え、工夫している姿を褒める。 ・新たな疑問を見つけ、取り組もうとしている姿を認め、色々なことに粘り強く繰り返し取り組む楽しさが味わえるようにする。 ・家庭で調べてきたこと等を全体にも伝え、活動の意欲につなげる。

V 保育実践

1 保育計画

(1) 実態把握

本学級は、年長5歳児22名のクラスである。実践前に実態把握を行い、個々の遊びの様子や自分の考えを表現する姿を担当間で見取った。自分なりに思いや考えを表現しながら工夫して遊んでいる園児は3名、遊びの中で表現することを楽しんでいるが、自分なりに考えを深め、工夫して遊ぶ姿があまり見られない園児は13名、自分の思いや考えを言葉などで表現するのが苦手な園児が6名いた。また、自己発揮しながら自信をもって遊びや活動に取り組み、友達と思いや考えを伝い合い、分からないことを工夫したりしながら繰り返し粘り強く取り組んだりする園児が少ないことが分かった。

(2) 保育計画

実践	○ねらい・内容
	<p>○動物という共通のイメージをもって、これからの活動に期待をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物園に行くことに期待をもって、自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いたりする。 <p>○様々な表現遊びを楽しむ。</p>

好奇心を育む ↓ 探究する ↓ 探究心を高める	11月：第3週 動物園楽しみ！	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスや歌、楽器等、動物の動きや鳴き声に見立てた様々な表現の楽しさを味わう。 ○動物園で見てみたい動物について調べ、不思議さや面白さを知り、新たな発見を楽しむ。 ・友達と一緒に、好きな動物について図鑑で調べる。 ○これまでにみんなが調べてきた動物について、いつでも共有しやすいように気付いたことをまとめる。 ・調べたことや動物の絵などをまとめてオリジナル図鑑作成を楽しむ。 ○動物園に行くことを期待しながら、飼育員さんに聞きたいことをみんなで考える。 ・聞いてみたいことや疑問に思っていることを自分なりの言葉で表現する。
	11月：第4週 動物園へ出発！	<ul style="list-style-type: none"> ○動物園見学时に実際の動物の迫力や不思議さに触れる。 ・動物観察ゲーム、飼育員さんに質問、カバの餌やり見学を行い、実際の動物の迫力に触れ、不思議さや面白さに気付く。 ○自分の思いや考え等を伝い合い、友達の話に共感したり、考えの違いに気付いたりする(クラス)。 ・動物園見学を通して、発見したことや感動したこと、不思議に思ったこと等、友達と気付きの違いを知る。
	11月：第5週 12月：第1・2週 表現しよう！	<ul style="list-style-type: none"> ○色々な素材に触れ、自分のイメージを表現する。 ・イメージに合った素材を選んだり、組み合わせて試したりして、動物製作を楽しむ(個人)。 ○友達と考えを出し合いながら、イメージを共有し表現する楽しさを味わう(グループ)。 ・グループの友達に自分の思いを伝えたり、相手の考えを聞いたりしながら、運動遊びや製作遊び、ダンス等、表現することを楽しむ。 ○誕生会や発表会に期待をもち、友達と一緒に活動し、やり遂げた達成感を味わう(グループ)。 ・年下のお友達やお家の方々に見てもらうことを通し、友達と協力して表現する喜びを感じる。

2 実践事例

(1) 好奇心や探究心を満たし、表現を楽しむ環境構成の工夫

好奇心を抱き、気付き考えたことを、自信をもって自分なりに表現し、工夫しながら考えを深め探究していける環境構成の工夫を行った。

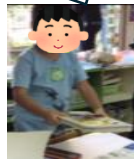
【環1】興味や関心を生かした場 図鑑コーナー ☆園児の興味や関心に沿って、様々な種類の図鑑を用意し好奇心を抱き、新たな発見に刺激を受ける環境 ☆新たな意欲や考えにつながり、目標をもって取り組み、自分なりに探究していく ☆不思議に思ったことをすぐに調べられ、興味や関心が継続する環境		【環2】活動を継続したくなる場 写真で掲示 ☆活動場所の近くに、活動中に考えた技の写真を掲示し、友達と考えを合わせ、繰り返し取り組み、遊びに夢になる環境 ☆友達の様子を見て、「今度は～しよう」と、新たな刺激になり、次の活動の意欲につながる環境	
【環3】様々な素材や道具に触れられる場 道具コーナー ☆自分なりに予想したり試したりしながら、繰り返し粘り強く取り組む環境 ☆考えを深め、じっくり取り組める環境 ☆イメージが沸き遊びが広がる環境		【環4】共有する場 集まりの場 ☆互いの考えを伝え合い、共有する場 ☆友達との関わりを深め、自分の考えを自信をもって表現する姿につながる環境 ☆新たな考えに触れ、工夫につながる環境	

(2) 事例1 自信をもって表現することを楽しむ手立ての工夫

～クイズ作りに夢中になるA児の変容を通して～

自分の思いや考えを表現することに苦手意識をもつA児が、興味や関心のあるクイズ製作して、自信をもち表現することを楽しみ、思いを言葉にして伝えられるよう、考えを引き出す援助の工夫を行った。

「何のクイズを作ろうかな」

実践でのA児の育ち	(動物園見学) 動物園見学でカバの餌やりを間近で見せてもらい、迫力にとっても感動していた。 心が動く 「すごい！えさをかまわずに食べてる」	(動物園見学後) 感動した体験からカバを作りたいと意欲をもち製作に取り組んでいた。様々な材料から、丸い形や色を繰り返し選び、はじめは好きな色で製作していたが「やっぱり違う」と話し、本物のカバに近い灰色を選択するなど試行錯誤して取り組んでいた。 繰り返す 「本物みたいな体の色にしたいくて、画用紙選びを工夫した」	
	・表現活動では、クイズ製作に興味を抱き、自分で作ってみたいと意欲をもちはじめた。		

環境の視点	【環 1】興味や関心に生かした場 【環 3】様々な素材や道具に触れられる場 【環 4】共有する場・自信につながる場			
援助の視点	援助①(気付かせる)	援助②(引き出す)	援助③(考えを深める)	援助④(工夫を促す)
○園児の姿 探究の深まり				
○初めて自分でも作ってみたいと意欲を見せはじめた A 児。			☆環境構成 ◎援助	
A 児「足が遅い動物でこのカメを描こう」心が動く T「どうしてこのカメにしたの？」援助② A 児「(甲羅に)つのがない」なるほどと思う 「丸くてゆっくり歩きそうだね」援助②			◎考えを言葉にして表現できるよう問いかける。	
○A 児の意欲に刺激を受け、C 児もクイズを考えはじめる。			☆クイズを製作している場の近くに、様々な種類の図鑑を置く【環 1】。	
C 児「僕も足が遅い動物にする」 A 児「カメはこの図鑑に載ってるよ。僕はこのカメを描く。(C 児は)どのカメにしたい？」			☆製作する場を共有することで、互いの刺激になり、考えを合わせ、一緒にクイズ製作を楽しめるようにする【環 4】。	
○C 児に教えながら、クイズの絵と一緒に描き始める。				
A 児「描いてみる？」やってみる C 児「ここに描くの？」 A 児「もっと大きく(描くと良いよ)」やっぱりと納得する				
○クイズができたことを喜び達成感を抱く A 児。				
A 児「できた！先生見て」 T「すごい！面白いのができたね」援助④ 「問題の動物は何にしたの？」 A 児「カメとヘビとライオン」 T「いいね。カメとヘビはどっちが足が遅いんだろうね？」援助③ A 児「カメだよ。(歩くのが) ゆっくりだから」			◎A 児の考えが広がるよう問いかけ、新たな気付きにつながるようにする。	
○次は首の長い動物クイズを作りたいと意欲をもつ A 児。			◎動物園で飼育員さんに質問した楽しい体験を思い出し、クイズ製作できるように、皆で作ったオリジナル図鑑を見るよう援助する。	
T「きりんは何で首が長いんだっ？」援助② A 児「葉っぱを食べるからだよ」心が動く T「そうだね。飼育員さんが教えてくれたね。他にも首が長い動物いるのかな？」援助② A 児「(オリジナル図鑑で調べて...)ヘビもあるね」 「やっぱりと納得する」 T「たしかにそうだね！ヘビはどこまでが首なんだろう？不思議だね。」援助③ A 児「顔の下ちょっとだよ」やっぱりと納得する T「なるほど。首から先は何だろね？」援助④ A 児「分からない。」(首の長い動物を図鑑で自分なりに調べはじめる)			◎A 児の考えが広がるよう一緒にオリジナル図鑑で調べたり、問いかけたりして、新たな気付きにつながるようにする。	
○友達にも「自分が作ったクイズを見せたい」という思いが高まり、集まりの場で、初めて発表する次の生活に生かしていく			☆集まりの場でクイズを発表し、できた喜びや達成感を味わい、次の活動の意欲につながる【環 4】	
A 児「首の長い動物はどれだ？」 「1 きりん 2 かめ 3 ヘビ」 「正解は 1 のきりんです」 T「ヘビの首はどこまでだと思う？」援助② 他「全部？」「顔の所？」 T「不思議だね。どこまでかな？知りたいね」援助④			◎自信をもって発表できるように、援助する。	

【考察】

保育教諭が、首の長い動物に好奇心を抱いた A 児の姿を捉え、「きりんの他に首の長い動物は何がいるかな？」と考えを引き出す援助を行ったことで、オリジナル図鑑の中から「ヘビもあるね」と A 児なりに首が長い動物をイメージし、気付きを表現していた。また、A 児の気付きに共感し、「ヘビはどこまでが首なんだろう？」と面白さを追求できるよう問いかけたことで、A 児なりに「首が長い動物」に焦点を当て、図鑑を見ながら様々な動物を見比べ、首の長い動物クイズの設問をじっくり考え、首が伸びるカメも加え、製作していた。その後、A 児はクイズができた喜びや達成感から「友達にも自分が作ったクイズを見せたい」という思いが高まり、集まりの場で初めて発表する姿につながったと考える。さらに「次は、体の長い動物クイズを作りたい」と意欲をもっていた。

表現することが苦手だった A 児が、試行錯誤しながら夢中になって取り組み、友達と関わるだけでなく、教える姿への変容も見られた。保育教諭の援助に加え、A 児の興味や関

心を生かせる表現活動を選択させ、活動の願い(テーマ)を関連させ表現活動を行わせたことが、A 児の心を動かし「もっとこうしてみたい」と自分なりのやり方でじっくり組みたい気持ちを高め、自信をもって発表する姿を育む手立てとして有効だったと考える。さらに、友達との関わりや発表時に、自分の考えを認められたことが新たな自信につながり次の活動への意欲や繰り返し夢中になる姿を育むことにつながったと考える。

(3) 事例2 友達と考えを合わせながら、繰り返し遊びを楽しむ手立ての工夫

～新しい考えを生み出し遊びを工夫する B 児の変容を通して～

苦手意識をもつと「やらない」といって消極的になってしまう B 児が、フラフープ表現を通して、友達と考えを合わせ遊びが広がる楽しさを味わい、新しい考えを生み出し遊びを工夫する面白さを感じられるよう、友達と思いを共有する場の工夫を行った。

<p>実践での B 児の 育ち</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>(動物園見学) 動物観察ゲームを通して、特に「マンドリルの鳴き声を「かっこいい」と感じ、感動していた。心が動く</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(動物園見学後) マンドリルの鮮やかな顔を表現したいと繰り返し様々な素材を試し、「これでいいかな」と写真と自分の製作物を何度も見比べ、試行錯誤して粘り強く取り組んでいた。繰り返す</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「最近ハマっているフラフープで動物のまねやりたい」</p> </div> </div> <p>「マンドリルの目は、黒・オレンジ・黒の順番だ」</p> <p>「キーキー鳴いている」</p> <p>・様々な動物に興味や関心を抱き、B 児が戶外遊びの中で特に楽しんでいるフラフープを使って動物の動きを表現したい思いが高まっている。</p>
<p>環境の視点</p>	<p>【環 1】興味や関心を生かした場 【環 2】活動を継続したくなる場 【環 3】様々な素材や道具に触れられる場 【環 4】共有する場・自信につながる場</p>
<p>援助の視点</p>	<p>援助①気付かせる 援助②引き出す 援助③考えを深める 援助④工夫を促す</p>
<p style="text-align: center;">○園児の姿 探究心の深まり</p> <p>○最近できるようになったフラフープを使って表現できるとで、表現活動には苦手意識をもち消極的だった B 児が、友達と一緒に工夫しながら取り組む。</p> <p>B 児「フラフープの中を通して、動物に変身するやつやろう。なんか動物言ってる。」</p> <p>D 児「かたつむり」 (E 児がカタツムリの真似をしてゆっくりフラフープの輪の中を通る)</p> <p>B 児「めっちゃ遅いやつか」なるほどと思う (E 児の真似をしてゆっくり輪の中を通る)やってみる</p> <p>B 児「次は何の動物？」繰り返す</p> <p>○今までの活動を思い出させながら保育教諭が言葉かけしたことで、友達とフラフープをつなげ、体の長いへびを工夫して表現したい B 児。</p> <p>T「皆で、技を考えよう。」援助② T「(今まで考えたフラフープの表現写真を示しながら)前は、一人技二人技を考えたね。」援助② T「今度はどうする？」援助④ B 児「(今日は)4 個でやってみる」心が動く T「何の技ができそう？」援助② B 児「(皆でやるなら)へびとかじゃん？」やってみる T「いいね！いっぱい友達がいるから、皆がつながっためっちゃ長いね」 B 児「馬みたいに走らないで(ゆっくり)歩こう」なるほどと思う</p> <p>T「どうやって動くの？」 他「にょにょ」 F 児「かみつく」 T「いいね！他にもある？」援助② B 児「先頭がこう(噛みつく動き)したらいい」やっぱりと納得する</p> <p>○B 児が J 児の思いを受け止め、新しい考えを生み出す。</p> <p>E 児「やっぱり噛みつく技はやりたくない」 T「皆に相談してみよう」(E 児の思いを皆に伝える) 「E 児はやりたくないみたいだよ。皆はどうする？」援助④ B 児「(僕は)やりたい。(E 児がやりたくないなら)1 番目(顔)じゃなくて 2 番目になれば良いじゃん」次の生活に生かしていく</p>	<p style="text-align: center;">☆環境構成 ◎援助</p> <p>☆中庭に移動し、広い空間で友達と一緒に活動できるように、場を工夫する【環 2】</p> <p>☆今まで考えたフラフープを使った動物の動きを掲示し、振り返り、新しい動きを考えるヒントになるようにする【環 2】</p> <p>☆意図的に友達と考えを伝え合う場を設け、皆でアイデアを出し合い表現を広げられるようにする【環 4】</p> <p>◎グループの友達と一緒にどんなフラフープを使った表現ができそうか考えを伝え合えるよう、思いに共感したり、問いかけながら工夫を促したりして、活動の意欲につなげる</p> <p>☆再度グループの皆で集まる場を設け、互いの考えを共有し、次の活動の工夫につなげる【環 2】</p> <p>◎友達と相談し、活動が深まるように「どうする？」と問いかけ、互いが納得して取り組めるように援助する</p>

○本物みたいなヘビの動きを考え工夫したことを、集まりの場でグループの友達と協力して表現していた**次の生活に生かしていく**

T「何の動物でしょうか？」(G 児がレッツゴーと言って動く)
他児「電車？」「ヘビ？」「みみず？」
フープ「(先頭が手で噛みつくような仕草をしながら)がぶがぶ」「正解はヘビです」
T「F 児が噛みつく技をしたらもっとヘビ見たいと考えていたよ」
他「レッツゴーではじめたら電車みたい。によろによろではじめた方が良い」
フープ「によろによろ」**なるほどと思う**
他「もっといっぱいいたら長くなって怖そう」



☆集まりの場で、考えた技を紹介し、満足感や達成感を抱き、次の活動の工夫につながるようにする
【環 4】

☆友達の考えを聞き、遊びが広がり新たな活動の意欲につながるようにする。**【環 4】**

【考察】

保育教諭が、フラフープを使って表現することを個人で楽しんでいる姿を捉え、意図的に友達と一緒に相談する場を設けたことで、フラフープをつなげたイメージから体の長いヘビを予想し、「(皆でやるなら)ヘビとかじゃん」と自分の考えを伝える B 児の姿が見られた。その際、保育教諭がそれまでの活動を思い出させる声かけをしたことで、「4 個でやってみる」と工夫する姿を引き出すことができた。さらに B 児は、「やっぱり噛みつく技はやりたくない」という思いをもっている E 児も一緒に取り組めるよう新たなアイデアを出し、皆が楽しめるよう考えを伝えていた。その後も、B 児はどうやったらヘビらしい動きを表現できるか、友達と繰り返し試しながら、工夫し活動を楽しんでいた。

実践前は、苦手意識をもつと「やらない」とすぐに諦めていた B 児が、活動に粘り強く取り組む姿へ変容が見られた。B 児の興味や関心のある言葉遊びやダンスと活動の願い(テーマ)を関連付けて活動させたことが、動物への興味を徐々に抱く姿につながり、動物園での心動かされる体験がより一層効果的に働いたと考える。実践後、B 児は「苦手なことも友達と一緒にやったら楽しかった」と答える等、「できないからやらない」ではなく、共に楽しむ仲間がいることで、新しいアイデアを出す楽しさを感じ、粘り強く取り組む姿につながったと考える。意図的に集まりの場を設け、友達と思いを共有し認め合いながら活動させたことは、「もっと面白くするにはどうしたらいいかな」と自分なりに新たな考えを生み出し、工夫する楽しさを感じる手立てとして有効だったと考える。

3 園児の変容

実践前と実践後における園児の姿を比較すると、自分の思いや考えを表現しながら、工夫して遊ぶ子が 3 名から 14 名に増えた(表 4)。また、表現することが苦手だった園児全員にもそれぞれ変容が見られた。実践後も「図鑑を見たり色々な材料で作ったりするのは好きですか？」と聞き取りを行ったところ、「調べるのも作るのも好き」と答えた園児が 8 名から 17 名に増えた。その理由として、実践前は「好きだから」と答える園児が多かったが、実践後は、「皆と一緒に調べたりして技を見せるのは楽しいから好き」とより具体的に答える園児が増えた(表 5)。実践後の保護者アンケートでも、「もっと

表 4 実践後の園児の実態

実践前	工夫（製作等）		
		あまり見られない	工夫している
表現（言葉等）	友達と伝え合う	8	3
	自分の思いを表現	5	0
	苦手	6	0



実践後	工夫（製作等）		
		あまり見られない	工夫している
表現（言葉等）	友達と伝え合う	5	9
	自分の思いを表現	3	5
	苦手	0	0

色々なことが知りたいから、図鑑が欲しいと言っていた」「ワニやヘビ等の動物園に行ってみたいと話している」等、家庭でも活動についての話題が増えたとの回答があった(表6)。園児へ言葉かけを行い、家庭と連携を図ったことも、園児が継続して好奇心を抱き体験を充実させることにつながったと考える。

心動かす体験から、園児が自信をもって表現できたのは、保育教諭が園児一人一人の興味や関心を生かし様々な表現活動を選択させ環境構成の工夫を行ったからだと考える。また、活動の面白さに気付き繰り返し試行錯誤する援助の工夫を行ったことで、互いの気付きや考えを認め合い、工夫しながら粘り強く取り組む姿につながった。園児の好奇心を捉え表現活動や環境構成を工夫し、保育教諭が探究心の深まりに沿って言葉かけの工夫を行うことは、考えたり試したりしながら、園児なりに考えを深め、自信をもって表現する姿を育むのに有効であると考ええる。

表5 園児の聞き取り調査

<p>(実践前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図鑑は絵と字があって面白い。 ・ 作るのは楽しくて好き
↓
<p>(実践後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と一緒に調べたりするのはよく分かるから好き。 ・ 皆で話し合うのは面白い。 ・ 技を考えて、皆に見せるのが楽しい。

表6 実践後の保護者アンケート

<p>(保護者アンケート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大好きな電車だけでなく、動物の話が増えた。 ・ 「ワニやヘビ等の動物園に行ってみたい」と話している。 ・ もっと色々なことが知りたいから、図鑑が欲しいと言っていた。 ・ 「大きくなったら動物園の飼育員になりたい」と話していた。
--

VI 成果と課題

1 成果

- (1) 園児の興味や関心を生かし表現活動の工夫を行ったことで、夢中になって取り組み疑問に思ったことを予想したり調べたりして、活動の面白さを広げ自信をもって表現する姿が見られた。
- (2) 好奇心を抱く姿を捉え、活動がより面白くなるよう友達との関わりを援助したことで、互いの気付きや考えを認め合い工夫しながら粘り強く取り組む姿につながった。

2 課題

- (1) 好奇心や探究心を抱き考えを深める姿は友達との関わりを通して深まることから、言葉で表現する力を養い、友達と十分に関わる活動をより充実させる必要がある。
- (2) 発達の段階に沿って好奇心を抱き探究する姿を育めるように、環境構成と援助の工夫を継続し、年間を見通した計画をする必要がある。

《主な参考文献》

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』	内閣府・文部科学省・厚生労働省	2018
『探究過程の分析』	秋田喜代美 他	2020
『遊びの中の学びの過程—発達特性と教育課程—』	年岡潤美 他	2000
『幼児の好奇心・探究心を支える保育の展開』	六車美加	2023
『子どもの「やりたい!」が発揮される保育環境』	宮里暁美	2018